

【経営の状況】

(単位:千円)

項 目		22年度	23年度	24年度	増減(24-23)
正味財産の状況	基本財産運用益	20	0	0	0
	受取会費・受取寄付金				0
	受託事業収益	42,988	41,000	43,770	2,770
	自主事業収益	27,172	29,327	31,711	2,384
	受取補助金等	4,496	4,369	4,150	△ 219
	その他の収益	21,925	15,433	24,432	8,999
	経常収入 計	96,601	90,129	104,063	13,934
	事業費	14,719	14,045	15,043	998
	うち人件費				0
	管理費	85,376	75,886	106,776	30,890
	うち人件費	31,698	43,659	66,554	22,895
	経常支出 計	100,095	89,931	121,819	
	当期経常増減額	△ 3,494	198	△ 17,756	△ 17,954
	経常外収入				0
	経常外支出	790			0
	当期経常外増減額	△ 790	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 4,284	198	△ 17,756	△ 17,954	
当期指定正味財産増減額	△ 17,145	72,574	△ 18,548		
正味財産期末残高	260,501	333,274	315,518	△ 17,756	

(単位:千円)

項 目		22年度	23年度	24年度	増減(24-23)
財務状況	流動資産	3,686	137,008	79,192	△ 57,816
	固定資産	279,766	306,549	273,040	△ 33,509
	資産 計	283,452	443,557	352,232	△ 91,325
	流動負債	1,532	86,911	26,467	△ 60,444
	うち短期借入金				0
	固定負債	21,420	23,373	10,248	△ 13,125
	うち長期借入金				0
	負債 計	22,952	110,284	36,715	△ 73,569
	正味財産	260,500	333,273	315,517	△ 17,756
	うち基本財産への充当額	1,000	1,000	1,000	
うち特定資産への充当額					

(単位:千円)

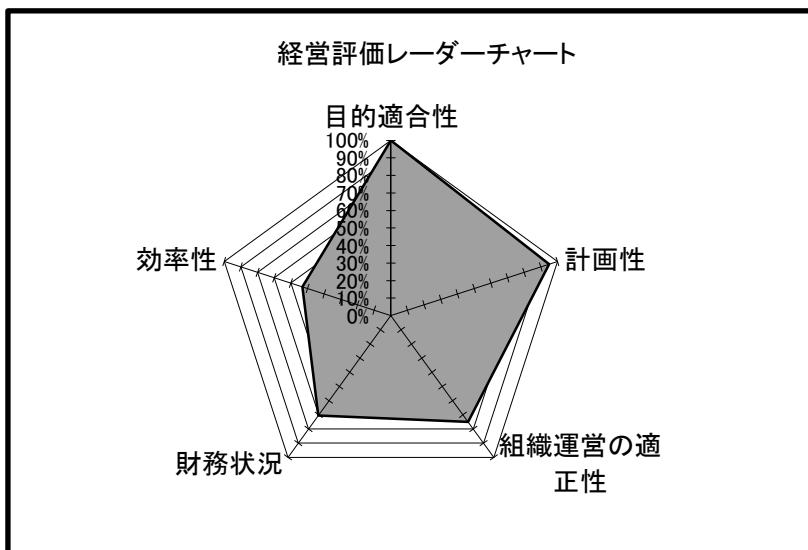
項 目		22年度	23年度	24年度	増減(24-23)
県の財政的関与の状況	負担金				0
	人件費(派遣法)補助金				0
	人件費(派遣法以外)補助金	4,496	4,369	4,150	△ 219
	人件費以外の補助金		84,158		△ 84,158
	運営費補助金	4,496	88,527	4,150	△ 84,377
	事業費補助金				0
	補助金 計	4,496	88,527	4,150	△ 84,377
	人件費(派遣法)委託金				0
	人件費(派遣法以外)委託金	14,136	14,405	15,043	638
	人件費以外の委託金	5,926	5,926	6,848	922
	委託金 計	20,062	20,331	21,891	1,560
	県支出金 計	24,558	108,858	26,041	△ 82,817
	県の財政的関与の割合(%)	25.4	120.8	25.0	△ 96
県貸付金残高				0	
県債務負担実際残高				0	

【県の財政的関与の内容・目的・金額】

項目	内容・目的・金額
負担金	
補助金(運営費)	山梨県馬術競技場の管理運営を行うために要する経費。(14,150千円)
補助金(事業費)	山梨県馬術競技場の施設整備を行うために要する経費。
委託金	県有競技用馬の能力を効果的に発揮させるため、飼育管理業務に係る委託経費。(21,891千円)
債務負担行為	

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	5	20	20	100.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	5	20	19	95.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	4	16	12	75.0%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	11	44	31	70.5%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	8	32	17	53.1%
合計		33	132	99	75.0%



【警戒指標】

--

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	当初の設立目的に適合した業務を実地し、地域の活性化に成果をあげている。
計画性	経営計画及び事業運営合理化計画に基づいた管理運営を実施している。
組織運営の適正性	組織の人員構成、業務チェック機能は概ね良好である。
財務状況	借入を行わず、安全な資金運用を図りながら健全な経営を引き続き行うとともに、使用料収入等収益増加が図れるよう経営努力している。
効率性	施設の有効利用を図り、必要最小限の人員で事業収入を確保し、管理費の削減に努めている。一方、設立当初からの施設等の老朽化が著しく、大会等の誘致への影響が心配される。
総合的評価	目的にあった計画的な運営に努力しているが、効率性の向上に向けて管理費の削減等努力しているが依然県からの財政支援に頼らざるを得ない現状である。経費削減と収入の増加を図っていくことが必要である。



対応策	各種大会の参加馬・参加者の増員を図る等事業収益の確保に努めるとともに、より一層管理費の削減など組織運営の効率化に努力して法人の自立性を高めていく。
-----	---

【法人担当部局の所見】:(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	当初の設立目的に適合した業務を実施し、地域の活性化に成果を上げている。
計画性	経営計画及び事業運営合理化計画に基づいた管理運営を実施している。
組織運営の適正性	組織の人員構成、業務チェック機能は概ね良好である。
財務状況	借入金はなく、安全な資金運用に努め、使用料等収入増加に務め健全経営を実施している。
効率性	施設の有効利用を図り、必要最小限の人員で事業収入を確保し、管理費の削減に努めている。設立当時の施設等は30年近く経過しており、財政面も併せ計画的な改修等を検討する時期にきている。
総合的評価	目的にあった計画的な運営に対し努力し、効率性の向上に向けて管理費の削減等努力しているが依然県からの財政支援に頼らざるを得ない現状である。経費削減と収入の増加を図っていくことが必要である。

【総合評価】:(経営評価委員会、経営評価アドバイザーによる総合評価)

今後更なる改善、見直しを行うべき視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px;">目的適合性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px;">計画性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px;">組織運営の適正性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px;">財務状況</div> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">効率性</div> </div>
総合的所見	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">A (75%~)</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">B (60%~75%)</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">C (50%~60%)</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">D (~50%)</div> </div>
※ランク下の%は得点率の範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理費の増加に伴い、平成24年度は経常収支は赤字となった。 ・ 収益性を見込める事業ではないため、県からの補助を受けざるを得ないが、借入金もなく経営は健全性が保たれている。 ・ 今後も、業務の一層の効率化や地域と連携したイベントの開催など新たな事業を積極的に実施するなど、経費削減とスポーツ振興に取り組み、自立した経営を目指していくことが求められる。



【総合所見等に対する今後の対応方針】

2020年に東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、山梨県馬術競技場としても国内外の乗馬選手の強化訓練施設として誘致するとともに、関東地域や東北地域の国体の開催会場として利用していただくよう宣伝活動等を行っていく。一方、山梨県馬術競技場は昭和61年のかいじ国体の開催のために整備され、30年あまり経過し施設が老朽化しており、整備の検討を進めている。